

ネポティズムの語源

途上国には「司法の汚職」もあるぐらい深刻な問題となっています。

汚職の英語は“corruption”だが、定義は国によって様々。例えば、公務員の横領は corruption の範疇に入るのが普通だが、日本の法律家の発想では汚職の範疇に入らず、統計もないはず。外国人と議論するときは、なぜ日本ではこれが入らないのかも説明する必要があるでしょう。

さてタイトルのネポティズム（情実・縁故主義）もまた、どの世界にも共通。「情実」と言うほうが端的だが、常時と間違える人がいるので、縁故主義も付け加えておきます。

これを英語で表現する“nepotism”（ネポティズム）となる。この語源は甥っ子を指す“nephew”（ネップュー）。しかもカトリック世界の慣習から来ている。何故かと言えば、神父は生涯結婚できず、直系血族がいない。神父も人間だからやはり自分の地位は身内に譲りたい。一番身近な若い親族は、兄弟や姉妹の子つまり甥っ子（nephew）となる。甥を後継者にする例が多くて nepotism という英語が誕生した。その慣習は葬り去っているとしても、語源としては残っている。

一般に西洋社会は、東洋社会を縁故主義の目で見ますが、キリスト教の世界にも存在したと見れば、人間の営みとして分かり易い。考えてみれば、米国大統領ジョン・F・ケネディは、司法長官に弟のロバート・ケネディを任命した。しかし、これを nepotism とか癒着とか身内最良とか非難した話は聞いたことがない。むしろ好意的に受け止めていた。彼らは俗世間を超越した世界にいたと考えるしかないほど、信頼されていたのでしょうか。（山下輝年記）



編集後記

コロナ禍での京都 kongress 開催

コロナ禍で緊急事態宣言が発せられる中、第 14 回国連犯罪防止刑事司法会議（京都 kongress）（2021 年 3 月 7 日（日）～12 日（金））が間近に迫ってきました。今回の会議は、in-person と online を併用したハイブリッド方式で開催されることになりました。

ACPF としては、online 方式での附属会議「迷路から抜け出そう：刑事司法と社会福祉の協働」（3 月 10 日（水）11:30～13:00）を開催します（日本、フィリピン、タイの専門家が報告します）。また、ヴァーチャル展示（英語）に参加し、ACPF の活動（国内 12 支部や会員企業様）の紹介も行います。

コロナ対応のため、ACPF 事務局では、現在、基本的にテレワーク体制で勤務を行っています。出勤が必要なときは、複数の職員が顔合わせしなくてすむよう、時間をずらして出勤するようにしています。皆様には、なにかとご不便をお掛けいたしますが、職場パソコンへのご連絡は自宅パソコンに転送されるよう設定してありますので、よろしくお願い申し上げます。

また、ACPF が支援する国連アジア極東犯罪防止研修所では、これまで online でのセミナーを、複数回実施（当財団も共催する刑事政策公開講演会を含む。）しております。

皆様、コロナ禍で活動自粛を強いられ、何かと大変かと存じますが、くれぐれも健康に気を付けてお過ごしください。

（吉田弘之記）